

# 支援の必要性・緊急性の高い支援対象者

令和2年度から令和3年度に全国で実施した実態調査では、

- ・ **こども・若者の0.5%~2.0%が「自分のみ」で家族の世話を**しており、
- ・ **家族の世話をしているこども・若者のうち、ケア時間が3時間以上／日の者が29.9%~35.1%**であった。

	回答総数	● 家族の世話をしている小学生から大学生		家族の世話を担う者のうち ケア時間が長時間 (3時間以上／日)で ある場合 (※2)
			うち世話の担い手が「自分のみ」 (※1)	
小学6年生	9,759人	631人 (6.5%)	67人 (0.7%)	29.9%
中学2年生	5,558人	319人 (5.7%)	29人 (0.5%)	33.5%
高校2年生 (全日制)	7,407人	307人 (4.1%)	35人 (0.5%)	35.1%
大学3年生	9,679人	987人 (10.2%)	197人 (2.0%)	31.2%

(※注) 表の下段は、回答総数に占める割合

(※1) 選択肢の設定上、「自分のみ」と「福祉サービス利用」の複数回答が可能であるため、外部サービスを利用している人もいる。

(※2) 家族の世話をする時間は、平日に世話をを行った時間(日で異なる場合は直近1か月の中で最も長かった日)を回答するもの。

## ケア負担の大きいケース像 (小学生対象調査から)

- ・ **世話を必要とする家族が「父母」である場合、**  
**「自分のみで世話をしている」との回答割合、「世話について話を聞いてくれる人がいない」との回答割合が他と比べて高い。**
  - ・ 父母の世話をする小学生の16.2%が自分のみで世話、父母の世話をする小学生の35.1%が世話について話を聞いてくれる人がいないと回答
- ・ **世話に費やす時間が長くなるにつれて、欠席・遅刻・早退の頻度の高さを表す回答割合が高い。**
  - ・ 「たまに欠席する」又は「よく欠席する」との回答は、家族の世話をする時間が3時間未満では19.3%、3~7時間で25.7%、7時間以上では33.3%
  - ・ 遅刻・早退を「たまにする」又は「よくする」との回答は、家族の世話をする時間が3時間未満では15.7%、3~7時間では27.8%、7時間以上では40%

# 調査研究結果①（世話を必要とする家族が父母である場合）

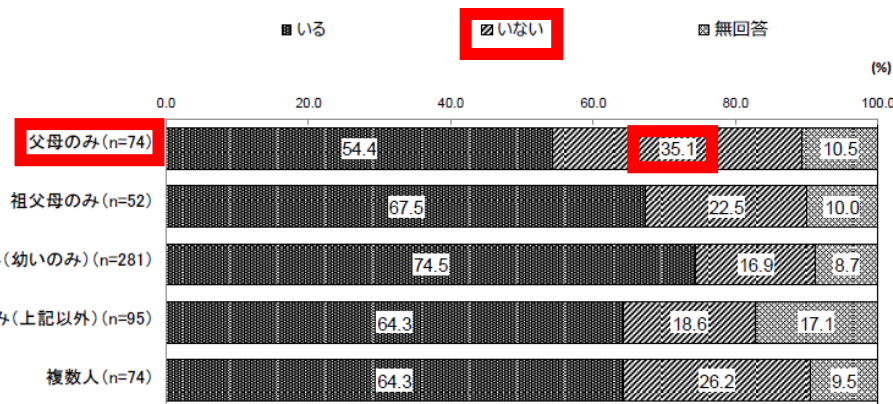
●世話を必要としている家族が「父母」である場合、自分のみで世話をしているとの回答割合が他の家族の世話をしている場合に比べて高い。

図表 115 世話を必要としている家族×一緒に世話をする人（複数回答）

	調査数 (n)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス（ヘルパーなど）を利用	その他	無回答
父母のみ	74	29.7	27.0	4.1	1.4	35.1	2.1	16.2	1.4	1.4	21.6
祖父母のみ	52	69.2	34.6	21.2	7.7	32.7	15.4	9.6	19.2	0.0	3.8
きょうだいのみ(幼いのみ)	281	78.3	64.8	10.3	6.0	45.9	1.8	7.5	0.0	0.0	4.6
きょうだいのみ(上記以外)	95	74.7	46.3	18.9	7.4	30.5	2.1	11.6	3.2	0.0	4.2
複数人	70	47.1	34.3	10.0	4.3	25.7	1.4	11.4	0.0	0.0	21.4

●世話を必要としている家族が「父母」である場合、その他の家族の世話をしている小学生に比べ、世話について話を聞いてくれる人がいないという回答割合が他と比べて高い。

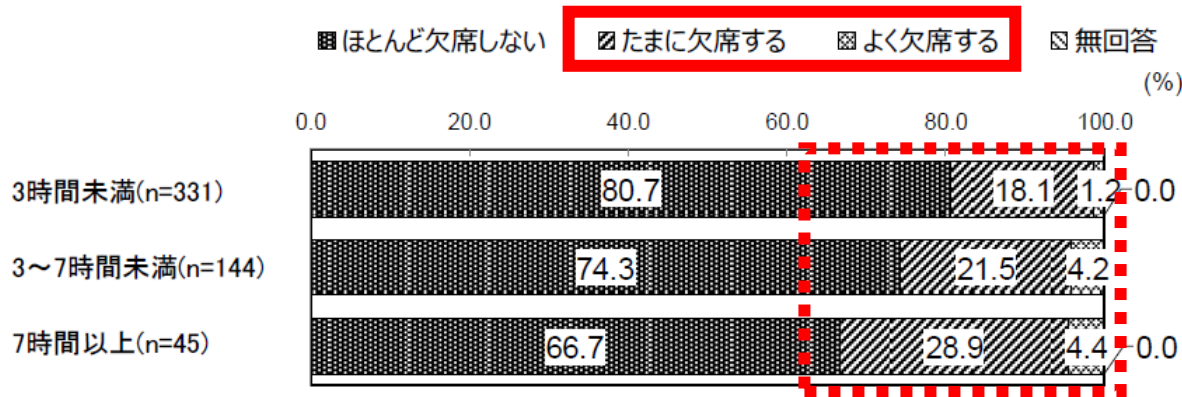
図表 123 世話を必要としている家族×世話について話を聞いてくれる人の有無



## 調査研究結果②（世話に費やす時間が長時間である場合）

●世話に費やす時間が長くなるにつれて、「たまに欠席する」「よく欠席する」との回答割合が高くなっている。

図表 105 平日1日あたりの世話に費やす時間×欠席の状況



●世話に費やす時間が長くなるにつれて、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」との回答割合が高くなっている。

図表 106 平日1日あたりの世話に費やす時間×遅刻や早退の状況

